＃＃　クマタカ通信　＃＃

vol.96：平成２７年１月２１日発行

From　Ibigawa ＳＡＢＯ

大寒（1月20日）を過ぎ、立春（2月4日）までの約2週間、1年で最も厳しい寒さを感じる時期とされています。このような時期ですが、越美山系砂防事務所では、岐阜県建設技術協会の方々に施工現場のご案内をさせて頂きました。また、今年度予定していた工事について、各地区で完成をしており、大仲津谷においては、今年度の工事をもって砂防堰堤の竣工となりました。

旬な現場をご案内　＝大蔵谷＝

1月8日に岐阜県建設技術協会（県及び市町村の建設関係職員）の85名の方を、揖斐川町樫原（かしはら）地先で行われている大蔵谷（おぞうたに）第1砂防堰堤工事（施工：西濃建設㈱）にご案内しました。

当日は雪混じりの寒風が頬を切り裂くあいにくの天候でしたが、参加した皆さんはものともせず熱心に見学され、施設計画や施工方法等に関する技術的な質問も数多く出るなど、予定していた時間をオーバーする熱い研修でした。

事業目的等を説明する
三浦副所長（右端）

鋼製透過型砂防堰堤の
施工状況を見学

砂防堰堤が竣工　＝大仲津谷＝

揖斐川町坂内坂本（さかもと）地先で工事を進めてきた大仲津谷（おおなかつたに）第1砂防堰堤工事（施工：㈱山辰組）は、諸家（もろか）集落を土砂災害から守ると共に、横山ダムへの土砂流入軽減する事を目的に、砂防堰堤の建設が昨年度より行われて来ました。

今年の工事をもって砂防堰堤は竣工し、地域の皆さんのくらしを守るため、どっしりと構えています。

竣工した大仲津谷第1砂防堰堤

現場代理人
㈱山辰組
井上 勝彦 さん

当工事は諸家地区の奥に位置しているため、集落内の狭い町道を、工事車両が頻繁に通行しなければなりませんでした。そのため、出来るだけ地元の方々と会話するように心がけ、コミュニケーションを取ることによって地元への対応も迅速に行うことが出来ました。その結果、無事故で無事に工事を完成することが出来ました。最後に、諸家地区の方々の工事に対する、ご理解とご協力に感謝いたします。

崩壊斜面の安定化へ　＝八草川＝

揖斐川町坂内川上（さかうちかわかみ）地先で工事を進めてきた八草川（はっそうがわ）山腹工事（施工：㈱久保田工務店）は、平成22年1月に八草川左岸の斜面が融雪水の浸透による斜面崩壊が発生した箇所の本復旧工事を平成24年度より行っており、今年度予定した工事が完了しました。

なお、来年度も引き続き山腹工の施工を行い、完成を目指します。

復旧が進む八草川山腹工

現場技術者の声

監理技術者
㈱久保田工務店
小松 勝裕 さん

冬季の降雪を見越して工程の管理には気を使いましたが、おかげさまで降雪前の12月初めには現場作業を終えることが出来ました。また現場は、町道より上に最大60mの高所作業となるめ、墜落転落災害には作業員とも全員で危険防止に努めました。おかげで無事故無災害で現場を終わることが出来ました。工事関係者並びに地元住民の方々には、ご理解ご協力のほどありがとうございました。

土砂捕捉容量を確保　＝坂内堰堤＝

揖斐川町坂内広瀬（ひろせ）地先で工事を進めてきた坂内川（さかうちがわ）流木対策工事（施工：西建産業㈱）の坂内工区は、坂内川上流部から流出する土砂の捕捉量を高めるため、既設の坂内砂防堰堤に堆砂する土砂除石する工事で、今年度予定した施工量の除石が完了しました。

なお、坂内川流木対策工事は、引き続き寒谷（さむたに）工区で鋼製流木止めを設置する工事を行っています。

除石が完了した
坂内砂防堰堤の堆砂敷

工事の施工にあたり地域の皆様のご理解・ご協力に感謝します。
まだまだ多くの箇所で工事を行っています。引き続きよろしくお願いします。

今年は越美山系砂防事務所が発足する契機となった、『奥越（おくえつ）豪雨』（昭和40年（1965）9月発生）より、50年の節目の年となります。この間当事務所では、揖斐川・根尾川流域で、土砂災害から地域のみなさんの安全な暮らしを守るため、砂防堰堤などの砂防施設を建設する、砂防事業を行って来ました。クマタカ通信では過去の災害の記録を再度振り返り、砂防事業の重要性を再認識するため、～昭和40年（1965）災害／『奥越豪雨』～としてシリーズで紹介します。

昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』①

管内各地に大きな被害

夏は旱魃（かんばつ）気味、一転9月に集中豪雨

昭和40年（1965）の夏はむしろ旱魃気味だった。

3、4月は異常低温、5月末、季節外れの台風、6月、台風くずれの低気圧による大雨、7月上旬、梅雨前線による大雨があったが、7月下旬から8月末にかけては一転夏型の好天気が続き、ほとんど見るべき降雨はなかった。人々の会話の中に、「雨が欲しいね」という言葉が出るくらい県下の各地では、かんがい用水、生活用水などの水不足や、小雨に伴う水陸稲、野菜、果樹などの農作物に被害が発生していた。

9月に入って一転、台風23号、24号と前線の影響による豪雨に見舞われ、大きな災害となったのである。

前哨的に台風23号、揖斐川上流域に局地的豪雨

昭和40年9月6日硫黄島の南約400kmの海上に発生した台風23号は、発生後次第に発達し、南大東島を過ぎる9日には、中心気圧940mb、風速25m/秒で、暴風雨圏も200kmと中型の強い台風となった。10日朝高知県安芸市付近に上陸、瀬戸内海を通過し、姫路市付近を通り、若狭湾西部から能登半島をかすめ、時速90kmを超す速さで日本海を北上していった。

この台風は、上陸後も勢力はあまり衰えず、このため局地的に強い風が吹き、岐阜県内で瞬間最大風速29.6m/秒を記録、揖斐川上流域に局地的豪雨をもたらし、特に徳山では積算雨量250mmに達した。この降雨が、9月15日の災害を起こしやすくしたともいえるだろう。

９・１５集中豪雨災害

台風23号の通過後、次いで台風24号が9月11日にはグアム島の西北西900kmの洋上で発生した。

日本付近には南海上から伸びる前線が停滞していた。

この前線は台風24号の接近とともに次第に北上し、9月14日午後には北陸から近畿にかけて停滞し、その活動がにわかに活発となった。

14日午後から南東の風が吹き込み、雨が次第に強くなり、揖斐川上流域、根尾川上流域の山間部は局地的な豪雨にみまわれ、特に徳山村《現揖斐川町》、権現山（能郷白山）では日雨量700mmを越えた。

この集中豪雨によって、藤橋村《現揖斐川町》杉原地区では「東前の谷」が氾濫、流出した大量の土砂と洪水によって、60世帯のうち全壊および流出30世帯、半壊20世帯、床下浸水10世帯という災害にみまわれ、221名の地区民が罹災（りさい）した。

東前の谷土砂流出
（藤橋村《現揖斐川町》東杉原）

徳山村においては小学校が山崩れによって倒壊、教師一人が死亡した。また久瀬村《現揖斐川町》、根尾村《現本巣市》においても洪水による住家の浸水、橋の流出、道路の決壊、農地の流失埋没など、多大な被害を被ったのである。

この前線の活動による集中豪雨は、越美山系の岐阜県、福井県の境界付近に最も強く降り、岐阜県側では徳山村、藤橋村、久瀬村、根尾村、福井県側では西谷村《現大野市》に大きな被害が集中するという局地的豪雨であった。狭い地域、しかも多数の谷が急傾斜をなす山間地への集中的な豪雨が、その被害を大きくした。

そして、この豪雨が徳山白谷、根尾白谷の大崩壊、福井県側西谷村流亡の原因となったのである。また大量の土砂・流木が横山ダムに流入、ダムの機能維持に危機をもたらすほどだった。

以降、揖斐川筋、根尾川筋、真名川筋、徳山白谷大崩壊、根尾白谷大崩壊と順を追って紹介する。

＜つづく＞

出典：越美山系災害史（原文のまま）
《　》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所
発行：越美山系砂防工事事務所　平成10年10月

白銀をエンジョイ♪

揖斐川町には「揖斐高原」と「国見岳」の２つのスキー場があり、訪れる方が雪を楽しんでいます。昨シーズンと違い、この冬は12月にまとまった雪が降った事もあり、滑走可能な日が続いています。スキー以外にもソリ、雪合戦や雪だるまなど、雪遊びにはもってこいの場所です。

週末は多くの人で賑わっています

クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発　行　国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所　揖斐川砂防出張所
〒501-0619　岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel：0585-22-3526　Fax：0585-22-6626
E-mail：ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp